

## 速記録 (平成16年12月6日 第4回口頭弁論)

事件番号 平成15年(ワ)第524号

本人氏名 李 ■ 雲

原告ら代理人 (龍田)

- 1 李■雲さんは文字を読んだり書いたりすることは自由自在にできますか。  
駄目です。
- 2 ある程度は読める。  
少ししか読めません。
- 3 自分の住所とか名前とかは書けますね。  
書けます。
- 4 話し言葉には不自由しませんね。  
ありません。
- 5 李■雲さんが生まれたのは1925年の11月8日ですね。  
そうです。
- 6 農家の一人息子でしたね。  
そうです。
- 7 八路軍に入隊したのは1942年ですか。  
1942年です。
- 8 八路軍に入隊したのと日本軍が李■雲さんの故郷を侵略してきたのはどちらが早いんですか。  
侵略以後です。
- 9 侵略以後に八路軍に入ったということですね。  
そうです。
- 10 あなたが捕まったのは何年の何月ごろですか。  
1943年11月です。

- 11 日本軍と交戦したときに捕まったのですね。  
そうです。
- 12 塘沽収容所に連れていかれましたね。  
そうです。
- 13 連れていかれることについて、あなたは同意をしましたか。  
いや、同意しません。
- 14 どんなふうにして連れていかれたんですか。  
縛って連れていきました。
- 15 それで、塘沽収容所に行くまでの間に拷問を加えられましたか。  
しました。
- 16 繰り返し繰り返し拷問を受けましたか。  
何回もありました。
- 17 一番つらい拷問はどんな拷問でしたか。  
一番つらかったのは口に無理やり水を流し込むという拷問でした。それも、何回も何回もされました。それ、本当につらかったです。
- 18 今でも忘れきれないでいますか。  
死んでも忘れることはできません。
- 19 拷問の様子は■田さんに話をして、陳述書という文書にまとめてもらいましたよね。  
そうです。
- 甲第8号証の2（陳述録取書作成報告（李■雲陳述録取書（中国語分）））を示す
- 20 今見た文書が自分の陳述録取書だということは分かりましたか。  
まあ半分ぐらいは中身は分かります。
- 21 この陳述書は自分で目を通して半分ぐらいは分かったということですね。  
そうです。
- 22 だれかに読んでもらいましたか。

ええ、読み返してくれました。

23 だれに読んでもらいましたか。

王■芳さんが読んで聞かせてくれました。

甲第8号証の3（李■雲陳述録取書その2）を示す

24 李■雲さん、今度長崎に来て、宿で弁護士の龍田からいろいろ質問を受けましたね。

はい。

25 そのときの通訳はだれがしてくれましたか。

■田■です。

26 それで、李■雲さんが話ししたことを龍田が日本語の文章にまとめましたね。

そうです。

27 その文章を■田さんに読んでもらいましたね。

はい、読み聞かせてくれました。

28 自分が言ったとおりのことが書いてありましたか。

同じです。

29 塘沽港から海を渡って日本に連れてこられましたよね。

そうです。

30 日本に行くことには李■雲さんは同意してたのですか。

同意しておりません。無理やりです。

31 八の字ひげの男を覚えていますか。

ちょっと今はっきりしません。

32 八の字ひげの日本兵がいませんでしたか。

そのときには見たんですが、その後はいなくなりました。

33 李■雲さんたちを船に乗せた後、いなくなったんですね。

そうです。

34 八の字ひげの男を思い出しましたね。

はっきりと思い出せません。

35 船の中で、だれからか日本の造船所に今から行くんだということを聞きませんでしたか。

日本のどこへ行くかはっきりしませんでしたけど、ともかく造船所だということは聞きました。

36 三菱の造船所だという言葉聞いた記憶はないですか。

そのときは三菱というのは知りませんでした。

37 それから、炭鉱に連れていくんだということを聞きましたか。

分かりません、それは。知りません。

38 日本に渡る船の中では行動の自由がありましたか。

ありません。

39 閉じ込められて自由に動き回ることを禁止されてたんですね。

ええ、できません。

40 船の中で死んだ中国人がいたのを覚えていますか。

死にました。

41 まだ生きてるのに海に捨てたかどうか、あなたは。

そうです。

42 李■雲さんはまだ生きてる中国人が海の中に捨てられるのを近くで見てたんですね。

私は船倉でですね、まだ生きてるのに引っ張り出されていくところをその船倉で見ただけです。

43 で、その人が海に投げ捨てられたということをほかの人から聞いたんですね。

そうです。

44 船の中で死んだ人の数は何人か覚えていますか。

はっきりしません。

45 連れてこられた場所が端島炭鉱であるということは、いつ、どうやって知り

ましたか。

2日ほどして寮長がみんなを集めてそう言ってましたんで、端島だと思いました。

46 あなたは端島炭鉱で働くことに同意をしましたか。

いや、不同意でした。

47 働くことについてどうかというふうにあなたの意思を聞かれたことはありませんか。

ありません。

48 端島に来たまでの間に、華北労工協会という組織の名前を聞いたことはありませんか。

知りません。

49 日本に行って働くことを承知するかしらないか、あなたの意思を問われたことはありませんか。

ありません。

50 端島炭鉱で働いていた間で、この炭鉱はどういう会社が経営してるかということを知ることができましたか。

知りませんでした。

51 三菱鉱業株式会社という名前を聞いたことはありませんでしたか。

もともとは知りませんでした。

52 それから、三菱重工業株式会社という名前を聞いたことはありませんでしたか。

いや、知りません。聞いてません。

53 その端島に来て、端島にいる間に、そこが長崎県の一部だということは知ってましたか。

知りませんでした。

54 長崎という地名をあなたが初めて耳にしたのはいつごろか分かりますか。

入坑させられるようになってから日本の人が長崎というふうに言っ  
たように思います。

55 入坑させられるというのは、ちょっとそのところどんなことか、もう少し。  
仕事をさせられるようになってから。

56 長崎という地名の言葉を耳にした記憶だということですか。  
そうです。

57 この端島の近くに長崎という大きな町があるということはあなたは知ってま  
したか。

知りませんでした。

58 端島では寮で寝起きしましたね。  
そうです。

59 端島は堤防で周りを囲ってたということはあなたは知ってますか。  
知っていました。

60 この堤防は、あなたが寝起きした寮からどのくらい距離が離れてましたか。  
200メートルぐらいだったかと記憶しています。

61 陸地側から見て、この堤防の高さはどのくらいでしたか。  
(右手を上を上げて) こうして手を伸ばしても届きませんでした。

62 手が届かなかったというのはその天端に届かないということ。  
まあ一番上はどんだけ高さがあるか、行かさなかったのでよく分かり  
ませんでした。

63 その寮の周りには人家がありましたか。  
職員の宿舎があったように覚えております。

64 寮はどんな建物でしたか。  
ぼろい木でできた建物でした。

65 2階建てですか、平家ですか。  
2階建てでした。

- 66 李■雲さんは1階、2階、どちらで寝起きしたんですか。  
上にいました。
- 67 天井の高さはどうでしたか。  
高くありません。
- 68 どのくらい。  
中へ入って、ちょっとかがまないと頭を打つぐらいの低さでした。
- 69 寮は何棟あったんでしょうか。  
東に1つ、西に1つだったと覚えてますが。
- 70 そうすると、1つの寮に中国労工は何人ぐらい収容されたんでしょうか。  
我々205人で来たので、1人死亡しましたんで204人だったと覚えてます。
- 71 で、それを、そうすると大体半分ずつくらい。  
そうだと思います。
- 72 李■雲さんは隣の寮に出入りしたことはありますか。  
ありません。
- 73 出入りは禁止されてたんですか。  
制限がありました。
- 74 制限があったというのは、禁止されてたのか。  
我々が出入りすることを禁止していました。
- 75 李■雲さんの寝起きした寮のことで聞きますが、その寮は出入口は幾箇所ありましたか。  
1つだけでした。
- 76 出入口には監視する人がいましたか。  
いました。
- 77 自由に出入りできましたか。  
駄目でした。

- 78 どんなときに寮を出ることができてたんですか。  
入坑させられるときです。
- 79 それ以外には外出は許されなかった。  
そうです。
- 80 出入口に監督がいて、要するに、外出しないように見張ってたんですね。  
もう既に入口がかぎがかけられて出られなくなっていました。
- 81 日中に寮にいる人たちというのは、夜勤明けの人たちですね。  
そうです。
- 82 で、今度仕事に出るまでの間、寮からは外出できないようになってたということですか。  
そうです。
- 83 それから、1階、2階は小部屋で仕切りがありましたか。  
小さい部屋です。
- 84 中国劳工が寝起きする部屋も小さい部屋ですか。  
そうです、小さい部屋です。
- 85 じゃ、李■雲さんが入ってた部屋は何人入ってましたか。  
20人です。
- 86 広さは。  
小さいです。みんな寝るともう寝れないぐらいの狭さでした。
- 87 そうしますと、寮は寝起きをするためだけに使ってたわけですね。  
ともかくぎっしりしていました。
- 88 ほかの部屋を自由に訪ね回るということはできましたか。  
駄目です。
- 89 ほかの部屋の人と自由にしゃべるということはできましたか。  
できません。

(以上 丸田 留美子)



- 90 禁止されてたんですか。  
そうです。
- 91 違反すると、どういう制裁がありましたか。  
見付けたら殴ります。
- 92 物で殴るんですか。  
木の棒で殴ります。
- 93 どんな木の棒ですか。  
これぐらいの太さ。
- 94 どれくらいですか。  
(両手の親指と人さし指で丸い形を作り示した)
- 95 直径が5センチぐらいで、長さは。  
これぐらいの高さです。
- 96 1メートルぐらい。で、そういう棒でたたかれるということですね。  
見付けたらすぐ殴ります。
- 97 李■雲さんも殴られたことがありますか。  
殴られて、本当につらい思いをまだ覚えています。個々の仲間とすら自由に話ができなかったという。
- 98 端島に来て働かされ始めたとき、どんなことが一番つらかったですか。  
一番つらかったのは、本当に食事を十分に与えないで本当に飢えたままの中で無理やり働かされたことです。本当に飢えてたまりませんでした。
- 99 寮でくつろぐということができましたか。  
まず休めません。
- 100 夜勤明けの人は朝御飯が済んで、今度、夕方の仕事で出るまでの間は寮の中で寝てるんですね。  
そうです。

101 昼飯抜きで寝てるんですね。

夜勤の人は昼は食べないで持って行って坑内で食べるということになります。

102 日勤の人は夕食後から朝まで寝てるということですかね。

そうです。

103 日勤の人は朝は何時ごろに起こされてましたか。

4時です。

104 これは夏も冬も同じですか。

同じです。

105 寝坊した人に対してはどんな制裁を加えるんですか。

けったり殴ったりしました。

106 朝御飯は何時。

起きてすぐ食事を取らされるということでした。

107 そうしますと、朝御飯夕御飯というのは日勤組と夜勤組で時間がずれてたんですね。

違います。

108 食堂はありましたか。

ありません。

109 そうすると、食事をするときにはどういうふうにしてたんですか。

自分で持って帰って食べます。

110 炊事場で食事が作られるわけですね。

そうです。

111 自分で取りに行つて。

はい。

112 そして部屋に戻つて。

そうです。

- 113 それで食べるということですね。  
(うなずく)
- 114 寮の中に自由に水を飲める場所がありましたか。  
いや、自由には飲めません。
- 115 どういうところでどうやって飲むんですか。  
台所というか御飯作るところにもらいに行くんですが、自由には飲めませんでした。入坑するときには水筒を持って行きました。
- 116 そうすると寮内で水を飲みたいときも許可を受けて飲むというふうになっていたんですね。  
食堂に行って水を飲みたいと言うんですけど、水は大事だと、長崎から運んでるというようなことをちらっと聞いたことがあって、自由に飲ましてくれませんでした。
- 117 それから、便所は寮内にあったんですか、それとも寮の外ですか。  
便所は下、1階にありました。
- 118 1ぺんに何人できるようになっているの。  
多くても4人くらいじゃないかと思います。
- 119 入浴施設はありましたか。  
ありません。
- 120 端島にいた間、1度もお風呂に入ったことはないんですか。  
ありません。
- 121 自分で体が臭いと感じたことはありませんか。  
自分がにおっても臭いと思うぐらい臭かったと思います。
- 122 体がかゆい、頭がかゆいというようなことはありませんでしたか。  
ありました。
- 123 寮の部屋ではよく眠れましたか。  
よくなかったです。

- 124 寝るときにはどのような寝方をするんですか、20人ぐらいの人が。  
詰めあって寝ました。
- 125 寝返りはできましたか。  
寝返りもできませんでした。
- 126 まくらはあったんでしょうか。  
まくらはなくて丸太でした。
- 127 部屋に1本、丸太を横に置いてそれをまくら代わりにしてたということですかね。  
そうです。
- 128 床は板張りでしたか、それとも畳でしたか。  
破れたむしろみたいなものでした。本当にひどい苦しみを受けました。
- 129 敷き布団はありましたか。  
ありません。
- 130 掛け布団はどうですか。  
薄いぼろぼろの布団がありましたが、こっちにこういう穴が開いてるあっちに穴が開いてるような、冬場はかぶってもうとても寒くて眠れないことがありましたし、夏は蚊に一杯かまれて寝られないし。
- 131 部屋にはすき間風がたくさん吹き込んできていましたか。  
そうです。
- 132 冬、よく眠れない原因というのは寒さからですね。  
そうです。
- 133 夏場、部屋の中の蒸し暑さはどうでしたか。  
蚊が一杯いて、一杯刺して眠れん。夏には非常に蒸し暑くて、それから当時ほとんど食べてないので夜になると目が見えなくなるということもあって、本当に大変でした。
- 134 部屋の日当たりはどうでしたか。

- 日は当たりません。本当に悲しいです。
- 135 部屋に窓はあったんでしょうか。  
覚えてません。
- 136 害虫としてどんなものがいましたか、蚊のほかに。  
ぴょんぴょん飛ぶやつがいたと。
- 137 のみのことですか。  
そうです。
- 138 のみによくかまれてましたか。  
かみました。
- 139 部屋の掃除はだれがしてたんでしょうか。  
だれも掃除しませんでした、帰って来てぐったりしてるので部屋の掃除をするような余裕もありませんでした。
- 140 会社の方が掃除するということはなかったんですか。  
知りません。
- 141 そうすると、冬用の寝具はなかったということでしたよね。  
ありません。
- 142 寒さをしのぐため、どんな工夫をしてたんですか。  
もうお互いにぎっしりと体を寄せ合っているしかありませんでした。
- 143 端島で生活してる間で中国劳工の人たちはどんな病気にかかる人が多かった  
ですか。  
風邪です。あと、疥癬という皮膚病です。それから夜盲症。
- 144 李■雲さんはどういう病気にかかりましたか。  
やはり風邪です。
- 145 それから夜盲症もですか。  
夜盲症もありました。
- 146 疥癬もですかね。

ありました。お互いに、だれかがうつたらすぐ自分もうつるという  
ような状態でした。

147 夜盲症は端島に来てどのくらいたってから。

五、六箇月ぐらいでしょうか。

148 あと、端島にいた間ずっと夜盲症が続いたんですか。

そうです。

149 それから、疥癬は何か薬を会社はくれましたか。

医者も見たことはありません。

150 要するに、薬ももらったことがないということ。

ありません。

151 疥癬のかゆみというのはどんな具合でしたか。

本当にかゆくてかゆくてたまらなくて、かくしかないんですけど、背  
中なんかお互いにかきあいしないとかゆくてたまりませんでした。

152 李■雲さんは風邪を引いたということでしたが、よく風邪を引いてましたか。

しょっちゅう風邪引いてました。

153 風邪引いたとき、仕事は我慢して働いてたんですか。それとも、休みを取っ  
てましたか。

いや、仕事しました。

154 風邪引いて休みをもらいたいという申入れをしたことがありますか。

休みを取ることはできませんでした、休みを取ってしまうと食事を半  
分に減らされたからです。

155 周りの人で仕事を休んで食事を減らされた人を見てるんですね。

見ました。

156 会社のほうから仕事を休んだときには食事は減らすよという警告を受けてた  
んですかね。

そうです、そのように言っていました。

157 寮の中に病人部屋というのはありましたか。

病人部屋がありましたが、私たちは絶対入りたくはありませんでした。

158 理由は何ですか。

病人部屋に入れられたら食べる物はひどくなるし、見てくれる人もいないからです。

159 食べる物がひどくなるというのは食べる物の量が減らされるということですか。

半分に減らされます。

160 それから、見てくれる人もいないということですか。

だれもいません。

161 要するに、ほったらかしにされてしまうということですね。

そうです。

162 衣類のことについて聞きますが、塘沽までは捕まったときの服をそのまま着てたんですか。

そうです、捕まったときの服です。

163 日本に来るに当たって衣類の支給がありましたか。

塘沽で支給がありました。

164 塘沽収容所で支給があった。

そうです。

165 それで、支給された服と着替えたんですか。

そうです、着替えさせられました。

166 支給された衣服はどういうようなものだったんですか。

緑色でした。

167 緑色の。

カーキ色というか。

168 カーキ色の何ですか。

長そでの上着とその緑色カーキ色の長ズボン、それ以外に半そでのシャツと半ズボンというか短いパンツ。

169 下着のパンツですかね。

ともかく、あと半そでと半ズボンみたいなものがあって、それは塘沽で持っている者は端島ではそういう支給は一切なかった。

170 それで履物は塘沽収容所まではどんな履物を履いてたんですか。

もと履いてた靴です。今私の履いてるような靴みたいなシューズ、靴です。

171 ズック靴ということでもいいですか。

布靴ですね。

172 それは八路軍活動中から履いてた靴ですね。

部隊でもらった靴です。

173 八路軍の部隊でもらった。

そうです、八路軍の部隊です。

174 塘沽収容所では履物は新しく支給されましたか。

ありませんでした。

175 その当時履いたままの履物で日本に渡ったんですね。

そうです。

176 端島に来て、それ以外に衣類で支給されたものがありますか。

塘沽でさっき言ってました半そでと半ズボンもらった人は端島までもらえませんでしたけど、端島に来てそれを持ってない人についてはその支給があったかのように思います。

177 李■雲さんは端島に来て新しく支給されたものはなかったということですか。

私のは塘沽でもらいました。

178 端島にいた期間、1度も支給されなかったんですね。

ありませんでした。



179 衣類のほかに生活用具で、あるいは身に着けるもので支給されたものはどんなものがありますか。

ありませんでした。

180 例えばタオルは支給されませんでしたか。

タオル、ありません。

181 せっけんはありましたか。

そんなの、言うまでもないですよ、みんなありません。

182 ふんどしは支給されてましたよね。

これはありました。

183 中国で生活してた当てもふんどしですか。

いや、使いません。

184 ふんどしはいつから使わされたんですか。

坑内で働かされるようになってからです。

185 それで、ふんどしは1箇月に。

1箇月に1回だと覚えています。

186 炭坑の仕事をするに当たって履物の支給はありませんでしたか。

足の指先が分かれてる地下足袋の支給が1足ありました。

187 端島にいる間、この1足だけですか。

1回、1足だけでした。

188 衣類だとか地下足袋を繕ったりするのは自分でしてたんですかね。

そうです。

(以上 森 令子)

189 汗が出たときには、タオルがなければ何によってふいてたんですか。

服でふきました。

190 洗濯はどんなふうにしてましたか。

洗うとすれば坑内で、そこにある水を使ってさっと洗うぐらいでした。

191 食事のことで聞きますが、3回の食事の内容はどんなものでしたか。

時には1日に6つの小さなマントウ、それから、あるときは1食にマントウ1つと、豆かすで作ったおつゆとかおかゆとか、そんなものを出しました。

192 そのマントウは、(温州みかんを示して)李■雲さんちょっと見てね、マントウの大きさ。

それよりちょっとだけ大きかったかのように思います(両手で大きさを示した)。

193 みかんを見てくださいね。これは直径が約6センチあるんですがね、あなたの示してるのは。

(証言台の囲い部分の上側の細長い面で示しながら)この端からこれです。

194 これだと、(物差しで測って)8センチ。

(前同面の幅を指し示して)幅はそれぐらいです。

195 そうすると、長方形の。

そうです、切ってるから四角形です。

196 すると、長さが8センチぐらいで、幅が(物差しで測って)4.5センチぐらいということですか。それで、あなたは中国、捕まる前のころは、主食は何だったんですかね。

小麦粉かとうもろこしの粉でした。

197 で、1日、食べてた量はどのぐらいですか。

正確な数字じゃないんですが、推測で2斤、約1キログラムだと思い

ます。

- 198 その中国での食生活に比べて、端島での3回の食事の合計は中国のどの程度に当たりますか。

まあ1日幾ら多く見積もっても8両、400グラムですね。

- 199 そうすると、よくて10分の4ということですね。

そうです。

- 200 捕まる前のころは、李■雲さんは体重はどのくらいあったんですかね。

110斤ですから、55キロです。

- 201 端島の生活が終わって本国に向けて出るころは何キロぐらいだったか、体重、分かりますか。帰国するとき。

帰国するときには体重が大分戻ってました。というのが日本が敗戦になってからは。

- 202 待遇がよくなった。

自由に食べれるようになりましたので。

- 203 すると、端島にいて一番やせこけたときで何キロぐらい。

一番やせたときは多くても90斤、45キロぐらいだったと思います。

- 204 あばら骨が浮き出てましたか。

もともと肉があったのがもう肉が全部落ちてですね、皮が骨を包むと言いますか、そんな状態になってました。

- 205 骨皮だけという感じ。

そうです。

- 206 食事の献立は会社が一方的に決めてたんですね。

そうです、会社が決めました。

- 207 李■雲さんは坑内作業でしたよね。

そうです。

- 208 充填の仕事でしたかね。

そうです。

209 現場の労働環境はどんな具合でしたか。

非常に悪かったです。

210 空気はどうですか。

空気、悪かったです。

211 原則的な労働時間は何時間というふうに決まっていたか。

1 2 時間です。

212 1 2 時間で終わるようなこともありましたか。

いや、終わらないことがあります。

213 1 2 時間で終わると終わらないのは、どちらが多かったですか。

終わらないときのほうが多かったです。

214 作業の終わりを指示するのはだれだったんですか。

我々を連れていく監督がやりました。

215 ノルマはありましたか。

ありました。

216 労働中、監督からどのような取扱いを受けていましたか。

殴ったりののしったりしてました。

217 ののしられた言葉で覚える言葉を教えてください。

(通訳人を介さず) ばかたれ、ばかやろう。(通訳人を介して) この  
2つ覚えてます。

218 ちょっとどなられたときのをまねて、大きい声でちょっと。

(通訳人を介さず、立ち上がって大きな声で) ばか、ばかやろう。

219 大きい声でどなられてたと。

そうです。

220 それから、あなた自身殴られたことがありますかね。

殴られました。

- 221 何で殴られましたか。武器。  
木の棒です。
- 222 どんなどんな棒でしたか。  
(手で示しながら) これぐらいの太さで、これぐらいの高さです。
- 223 5センチぐらいの大きさで。  
これぐらいの高さ。
- 224 1メートル近くということ。  
1メートルぐらいでしょう。
- 225 それでめった打ちにされるというような感じだったんですかね。  
あるとき炭車に積み込みをやらされたことがあって、そのときにもう疲れて目の前が真っ暗になってふらふらふらふらしてたことがあって、いきなり後ろからごつんと殴られて、あっと思ったんですけど、後ろから殴られてたんです。そのときに(弁護人席に置いてある温州みかんを指して)そのみかんぐらいのでかいこぶができたのを覚えています。
- 226 直径五、六センチぐらいのこぶができた。  
(うなづく)
- 227 労働時間中に休憩時間はありましたか。  
ありません。
- 228 昼食時間はだれが決めてたんですか。  
監督が言いました。
- 229 そうすると、監督が昼食を取れと言って食べ始めるわけですね。  
そうです。
- 230 それで、食べ終わった後の仕事開始はやはり監督が命令するんですか。  
そうです。
- 231 そうすると、昼食時の時間は大体どのくらいだったんでしょうか。

食べ終わったらすぐ働かされました。

232 坑内で働くときの服装についてお聞きしますが、寮を出るときはどのような服装で出るんですか。

ふんどしです。

233 下はふんどし。

だから、出勤の当時は上はもう裸でです。

234 上は裸、それで、ふんどし。

はい。

235 そうすると、冬の間も上も裸ですか。

冬も一緒です。

236 それから、履物は。

ぼろの地下足袋です。

237 それから、寮を出るときに水筒を持って出ると言いましたね。

持っていきました。

238 何回飲めばなくなる程度の量なんですか。

いや、もう飲んでしまうとなくなるのがもったいないので、ひと口ひと口、大事に大事に飲んでました。

239 水筒の水がなくなったときの補給はなかったんですか。

ええ、補給はありません。

240 寮の周りに自由に水を飲めるような水飲み場だとか、そういうものはなかったんですか。

ありません。

241 おなかですいた余りにみかんの皮を拾って食べたということを李■雲さん自身も経験しましたか。

あります。それも監督に見付かると殴られたりけられたりして、私も2回けられました。

242 それから、木の葉を食べたりとか草を食べたりとか、そういうことを自分自身したことありますか。

あります。

(以上 丸田 留美子)

長崎地方裁判所民事部

裁判所速記官 丸 田 留美子

裁判所速記官 森 令 子



速 記 録 (平成16年12月7日 第5回口頭弁論)

事件番号 平成15年(ワ)第524号

本人氏名 李 ■ 雲

原告ら代理人 (龍田)

1 坑内作業中にけがをするということはよくありましたか。

しょっちゅうけがしていました。

2 軽傷から死亡事故まで発生してましたね。

そうです。軽いけがから死亡までありました。

3 けがをしたときに会社側は治療を受けさせてくれていましたか。

ありませんでした。

4 大けがをした劳工が入院したということをあなたが見聞いたことはありますか。

知りません。

5 あなたの身近な人で入院した人はいなかったですか。

知りません。

6 けがした人が入院したかどうかというのは自分の身近な人でない限りは劳工の間でもなかなか伝わらなかったんですかね。

いや、分かりません。

7 それから、死亡した人に弔慰金が払われたかどうかということは知りませんか。

なかったと思います。

8 ■雲さん自身も何度もけがをしましたかね。

私は膝に軽いけがをしました。

9 それは治療をしないでそのまま自然に治るのを待ったのですか。

治療しませんでした。



- 10 寮の近くに警察の駐在所がありましたか。  
ありました。
- 11 どのくらい離れたところがありましたか。  
何メートルかというのはちょっとよく覚えておりませんが、寮からちょっと離れたところにあっただと思います。
- 12 警察官が寮内に立ち寄るといふのを見たことがありますか。  
昼間時々来てたかのように思います。
- 13 ■雲さんは就労拒否をしたことがありますね。  
ありました。
- 14 これはどんなことがあったんで就労拒否をしたんですか。  
あるとき、坑内でガス漏れの事故が発生しまして仲間が2人死にしました。余りにも危険な仕事だということで鉱山側に、我々の仕事を替えると、もともと船を造りに来てたはずなのに鉱山で働くのはおかしいじゃないかと言って行ったんですが、しかし鉱山の側は我々の要求を受け入れないばかりかひどく殴りつけて、そして警察を呼んで縛りました。そして警察が来て我々を縛り上げてめった打ちにされました。そして、服も破れるくらいひどく殴られました。
- 15 で、何日警察に捕まってたんですか。  
3日間警察に入れられていました。
- 16 3日間というのは、3晩。  
何日かははっきりしませんけど、3日3晩というふうに思います。
- 17 安全設備、安全に仕事ができるようにと要求したことに対して会社側はどういう回答をしたんですか。  
ともかく、おまえらは石炭掘りをするためにここに来させてるんだと、入坑しないと駄目だというふうに言いました。
- 18 それから、けがしたときにきちんとした治療をするようにという要求に対し

てはどういう回答を示しましたか。

そのことについてはそのときには要求は出してません。

19 警察ではどのような取調べを受けたんですか。

警察に行ったら、こういう騒ぎを起こしたと、だれが中心になって騒ぎを起こしたんだと、入坑しないと駄目だ、というふうに言いました。

20 警察官から入坑するように言われたことに対して李■雲さんはどうしましたか。

いや、私は絶対入坑しないと頑張りました。

21 それから、どういうことが起きましたか。

そうすると、警察官が後ろからいきなり私の首に切りつけました。裁判官の皆様方、是非この私の傷あとを見てください。

22 凶器は何だったの。

警察官は、こういう騒ぎを起こしたのはおまえが中心だろうと言いました。刀でした。

23 後ろから切りつけたんですね。

側面からです。

24 その手当はしてくれたんですか。

ありませんでした。

25 すると、どうしたんですか。

同じ仲間の肖■香というのが服を、ぼろになっていましたけど服を裂いて傷口を包んでくれました。そのときは私は地面に倒れたまま昏倒してたので、それは後になって聞いた話です。

26 今の時点でけがあとを示させてよろしいですか。

(裁判官席の前に行き、首の右側を示した)

27 王玉蘭という人のことを覚えていますか。

ちょっと今、十分には覚えてませんが。

- 28      どんなことで死亡したかということをお思い出しますか。  
          はっきりとした記憶じゃないですけど、今覚えてますのは彼が歩いてるとき、ちょっとゆっくり歩いてたんで監督が足でけたところ穴に落ちてそこで死んだというふうに覚えています。
- 29      それから張■林のことを覚えていますか。  
          覚えております。
- 30      張■林が監督を殴って死亡したという事故があったようですが、これはなぜ張■林がそういうことをしたかについて。  
          張■林は毎日何回も監督にすごくいじめられて殴られていましたので、とうとう耐えきれなくなって反抗したところ、殺してしまったんです。
- 31      張■林は縄で縛られて、どこに連れていかれたかは知らないんですね。  
          知りません。
- 32      刑務所で死んだといううわさを聞いたことはあるんですか。  
          聞いたことはありますけど具体的にはどこか分からなくて、恐らく刑務所じゃないかというふうな話を聞きました。
- 33      そのうわさ話はどこで聞いたんですか。  
          鉾山の中でそういうことがうわさになってました。
- 34      王雲起さんのことを覚えていますか。  
          覚えております。
- 35      どういう人でしたか。  
          王雲起さんというのは我々の仲間でも知識がある人でした。
- 36      亡くなったのは目の前で亡くなったんですか。  
          そうです。私たち数人が魚を焼いてるときにその目の前で死んだんです。
- 37      王雲起さんがまだ生きてるときに会社側に治療を求めたことはありませんか。  
          要求しました。

38 会社側の回答はどういうことでしたか。

会社はちょっと見ただけで、これはもう駄目だ、もう死んでるというだけで何もしてませんでした。

39 王雲起さんが倒れた後、会社側が病院のほうに連れていったということは知りませんか。

いや、病院は連れて行ってません。

40 そうすると、目の前で倒れて、その後どういうふうにしたんですか。

口の周りに一杯泡を吹いてて、そして顔も黒くなって体中が青ずnderような状態になりました。

41 その倒れた後、どういうふうにしたんですかね。

我々としてもどうしていいか分からず、動かすことも難しいと思って、我々も何もできませんでした。

42 結果的にはどうなったんですか。

ですから、私たちが魚を焼いてた場所で、その場で息を引き取りました。

43 だから引き取った死体はどういうふうにしたんですか。

寮の中の下の部屋に置かれてて明るく日には火葬にしたと覚えています。

44 袁久居さんのことを覚えていますか。

袁久居は私と一緒に石を落とす仕事をしてたんですけども、上から大きな石が落ちてきてその石に押しつぶされて亡くなりました。

45 靳青岩という人のことを覚えていますか。

靳青岩という人は採炭の仕事に回されてたんですが、坑の中の強い風が吹いてきて石炭粉の中に埋め込まれるような状態になって、口や鼻が石炭の粉で一杯に詰まってしまって、そういうことで窒息しました。

46 それから楊会民さんを覚えていますか。

楊会民と刑保昆は一緒に死んだんです。

47 どういう事故で死にましたか。

ガスの中毒です。

48 この2人がガス中毒で死んだときの会社側の取扱いに抗議して就労拒否をしたのですね。

そうです。

被告三菱重工業代理人（木村）

49 塘沽の収容所から船に移されますね。

そうです。

50 船に移るときは1隻の船だったのでしょうか。何隻かに分けて移ったんですか。

1隻です。

51 船の中で、どこに行くんだという行き先を聞いたわけですね。

船が出てしばらくしてから造船所に行くんだということは聞きました。

52 その造船所に行くんだというのはどういう言葉で言われたわけですか。

たしかそのときは、おまえらは船造りに行くんだ、造船だ、というふうに言われたと覚えています。

53 そう言われたのは、みんなを集めた上でそういう説明があったというんでしょうか。

それは我々みんながいる船倉の中でそういうことを言いました。

54 船倉の中でだれかが説明する形で言ったんでしょうか。そういう、うわさみたいなのが広まったということでしょうか。

あんまりきちっとした会とかそんな感じの雰囲気じゃなかったと思いますが、とにかくみんなの前でそういう話がありました。

55 みんなの前であったとおっしゃるけれども、原告の中でも造船所に行くというのを聞いた人もおれば聞かない人もいるんですけど。

そうでもあると思います。

56 なぜ、そういうことになりますか。

船倉ですから、けっこういろんな音もしますし、多分後ろに座ってたりしますと聞き取りにくい人もいたんじゃないかと推測しますが。

被告三菱マテリアル代理人（中野）

57 日本に来てからのことを伺います。端島に到着したとき、端島はどんな様子だったか、どんな感じがあったか、印象を教えてください。

我々が着いたときにはそこが端島ということすら我々には分かりませんでした。

58 どんな島の様子だったですか。

我々の船は大きな船でしたので、端島に直接着けられないので、小舟に何人かずつに移し替えられてそして上陸させられました。ただ、夜も暗くなってたんで余り島のことははっきり見てとれませんでした。

59 端島にはたくさん建物が建っていたとか、そういう様子は覚えていますか。

ちょっとはっきりしません。

60 昨日までの話を伺っておりまして、宿舎は日当たりの悪いところだったということですが、それは何の陰になって日当たりが悪かったんですか。

寮の前に大きな建物があつたので日がさしませんでした。

61 昨日、職員の住宅が近くにあつたということですが、大きな建物というのはコンクリートでできた建物ですね。

れんがが積んであつたような記憶があるんですけども。

(以上 森 令子)

62 あなたが住んだその寮の場所のことなんですが、あなたのお話ですと堤防から200メートルくらい離れていた場所ということですが、それは間違いありませんか。

私も測ったこともないので、まあ大体そうかなというところですよ。

63 端島というのは今でも島の周囲は1.2キロくらいですので、細長い形をしておりますので、50メートルも行けば堤防には行き当たってしまうんですけども、その辺ははっきりしないということですね。

そうです、おおよその数字ということだけです。

64 堤防の上までの高さですが、手を伸ばしても届かないくらいの高さということでしたが、実際に手を伸ばしてみたんですか。

やったことはありません。それも推測です。

65 木造住宅で2階建てだったということのようですね、その寮の名前などは覚えていますか。

第6寮だったかと思うんですけども。

66 昨日の証言ですと、1部屋に20人くらい入っていたということですが、陳述録取書には1部屋に四、五十人いたとあります。どちらが正確ですか。

向こう側に20人、こちら側に20人くらいということになります。

67 じゃ、1部屋に四、五十人いたというのは間違いなんですね。

こちら側に1つ、こちら側に1つあって、そうです、二、三十人です。

68 天井は低いということでしたが、廊下はそのようなことはなかったんですか。

いや、廊下もそんな高くなかったと覚えてます。まあ我々は2階にいたんで、2階は廊下のところもそんなに変わらないくらいの高さだったと覚えてますけど。

69 陳述録取書では、寝るときにははって入る、とあるので、寝床の天井が低いということなんではありませんか。

ちょっとはつきりしません。

- 70 昨日は、床のことのなんですけども、破れたむしろが敷いてあったということですが、陳述録取書では畳敷きだったとあります。どちらが正しいんでしょうか。

下に厚いのがあって、それが破れてたんで上に敷いてたんだというふうに思います。

- 71 じゃ、畳は敷いてあったということですか。

ともかく草の何かで作ったのが敷いてあったという記憶がありますけども。

- 72 病人部屋というお話があったんですが、病人部屋というのは大きさとか広さとか、どういう部屋だったのか教えてください。

いや、私よく分かりません、行ったことがないんで。

- 73 ほったらかしにされるとか、食事を減らされるとかいう御説明、昨日あったんですが、だれから聞いた話なんですか。

中に行ったことがある人がいたので、その人から聞きました。

- 74 だれからかは覚えてないんですね。

いや、それは分かりません。

- 75 陳述書の中で王雲起さんという方が針灸ができると、仲間が病気になったときに彼が針灸で治療してくれたと、そのために信望が非常に厚かったとあります。

そうです。

- 76 そうすると、王さんは針灸の道具を持って端島に来ていたんですか。

そうです、持ってました。中国から持ってきたようです。

- 77 王さんが治していた病気というのはどういう病気のことですか。

頭痛ですとか、風邪引きのときにも針を打ってたようです。

- 78 王さんはそういう針灸を専門にしている方で。



- いや、よく分かりません。
- 79 道具は持ち歩いていたんですね。
- そうです。
- 80 次にいきます。衣類の繕い物は会社ではしてくれないので自分でやっていたというお話だったんですが、繕い物をするのは仕事が終わってからですね。
- そうです。
- 81 繕い物をするための裁縫道具などは会社から支給されていたんでしょうか。
- くれました。
- 82 その裁縫道具ですけど、針と糸とはさみとか、そういうものですか。
- はさみはありませんでした。
- 83 食事について伺います。食事は、食事班という班があって、その班の人たちが作っていたんではありませんか。
- そうです。
- 84 食事班には中国人の方がいて、その中国人の方が料理をする役割だったんですね。
- そうです。
- 85 食事班ではどのような食事を作っていましたか。
- ともかくある物を使うしかなかった。
- 86 ある物とはどんなものですか。
- 豆かす、雑穀の粉ですね。
- 87 それだけですか。
- ほかにはありません。
- 88 調理場に入ったことはありますか。
- ありません。
- 89 陳述録取書に、機械で円盤状に固めたというような記載があるので、調理場に入ってその機械を見たのではありませんか。

この豆かすというのですが、それは大きく固めたやつを運んでくるんであって、こちらへ来てから固めるんじゃないので、向こうから送り出す前にそういう固めた形にして持ってくるという意味です。

90 向こうから送り出すというのは、どこのことですか。

どこからか分からない。

91 じゃ、機械で円盤状に固めたというのは、その調理場での出来事ではないということなんですか。

違います。

92 マントウというものは中国人の食事班の方々が作っていたんじゃないんですか。

そうです。

93 その作ってるところとかは見てはいませんか。

ありません。

94 それから、おかゆも食べたということですね。

その豆かすをお湯で溶いておかゆみたいにして炊いてあるものです。

95 献立は会社が決めたというお話だったんですが、それはだれから聞いたお話ですか。

ちょっとはつきりしません。

96 食事が少なかったということですが、昨日、最大で10キロ体重が減ったということでしたが、それは体重計などで測ったということですか。

ありません。

97 あなたの感覚として、まあそのくらい減ったんじゃないかということですね。

そうです、推測です。

98 中国に帰られる11月ころには元の体重に戻っていたということでしたね。

そうです。

99 次に、労働のことについて伺います。炭坑の坑口と寮の間ですが、どのくら

いの距離があったんでしょうか。

歩いて十数分ぐらいあったかというふうに覚えてますけど。

100 十数分ですか。その間は町中を歩くんですね。

道がありました。

101 町の様子はどのようなものでしたか。

端を何か歩かされたような記憶があって、町の様子はよく覚えていません。

原告ら代理人（龍田）

102 端というのは町の外れという意味。

家のこっちだったら、家に近づかない方向を歩かされてたと。

被告三菱マテリアル代理人（中野）

103 端島に着いて何日目から仕事を始めましたか。

ちょっとはっきりしませんが、3日間ぐらいしてからじゃないかなというふうに覚えてます。

104 それまでの間は何をされておりましたか。

使う工具の名前を教え込まれたりしてました。つるはしですとか、ハンマーですとか、スコップですとかですね、そういう名前を覚えさせられました。

105 班分けなどはしませんでしたか。

そういうの覚え込むのを終わってから班に分けて入坑するようにさせられました。

106 その班分けをする際には、隊長とか副隊長とか、そういうような役職を決めたりしませんでしたか。

いや、それははっきりしません。

107 はっきりしないというのは、したかもしれないけど、分からないということですか。

知りません。ともかく我々は何に行けと言われてたら何に行くしかありませんでしたので。

108 隊長さんとか班長さんとかがいたということは覚えてますか。

隊長はいました。

109 班長は。

班長もいました。

110 あなたは坑内作業をされていたんですか。

そうです。

111 具体的にはどのような作業をしていたか説明してもらえますか。

石を埋める充填の仕事です。

112 背中のバッテリーの液漏れがあったと陳述録取書に記載があるんですが、バッテリーを背中に背負うというのはどういう作業をしているときなんですか。

それはランプをつけるための電池です。

113 じゃ、ランプは1人1人あてがわれて身に着けていたものなんですね。

ありました。

114 坑内に入るときに、そのほかにどんな道具を支給されてましたか。

それぞれの使う工具を渡されました。

115 具体的にどんなものだったか覚えてますか。

私はスコップです。

116 スコップだけですか。

私はほかは使ってません。

117 それから、入坑は昼と夜に分けられるということなんですが、それは間違いありませんか。

はい、そうです、間違いありません。

118 で、昼に入るか夜に入るかは、半月ごとに入れ替わったということですね。

そうです。

- 119 で、その入れ替わる1日分は、これはお休みになるんですね。  
そうです。
- 120 そうしますと、15日に1日は仕事をしない日があったということですね。  
そうです。1箇月に1回、そういうことになるかと。
- 121 1箇月に2回になるんですよね。  
ともかく交替する関係で1箇月に1回だと私は思うんですけど。
- 122 次に、坑内というのは非常に暑い場所だったんではありませんか。  
そうです。
- 123 ふんどしを支給されたということですが、日本人の作業者も同じような服装だったんではありませんか。  
日本人は半ズボンみたいなのははいてた記憶がありますが。
- 124 日本人坑夫と一緒に作業をしたことはありますか。  
中国人だけでした。日本人とは一緒にいません。監督が1人いただけです。
- 125 中国人の隊長さんたちは余り作業はしなかったということでしたね。  
ちょっとはつきりしません。
- 126 先ほどの話ですが、2交替で原則的に12時間働くと。  
そうです。
- 127 しかし、12時間を延長することが多かったということなんですが、原則的に12時間の2交替制であるということは説明を受けたんですね。  
寮長が皆を集めてそう言ったというふうに思います。
- 128 労働条件の説明が一部あったということなんですが、そのほかに労働条件の説明はどんなものがあったか教えていただけますか。  
ありません。
- 129 労働時間が原則12時間であるということだけしか説明はなかったんですか。  
ほかはなかったというふうに思います。はつきりしませんが。

- 130 休憩時間の説明とか休暇の説明とかはありませんでしたか。
- ありません。覚えてません。
- 131 坑内で1回の休憩時間というのはどのくらいありましたか。
- 休み時間はありません。お昼はもうその2つのマントウを食べればもうすぐに働きます。
- 132 日本人と話をしたりはしませんでしたか。仕事場、休憩でも。今の話の続きなんですけど。
- いや、我々のところにはもう我々を監督してる監督が1人いるだけです。もうほかの人と話をするというようなことはあり得ないです。
- 133 陳述録取書で、張■林さんがよく監督と言い争っていたという記載があるんですが、それはどういう時間になさってたことなんですか。
- 私はそれがどういうときだかはちょっとはっきり記憶してないんですけども。
- 134 昼は水を持っていったということですが、その際の水筒は会社が支給したものですね。
- 寮でもらいました。
- 135 それから、先ほどの話にもありましたが、就労拒否をしている際に、私たちは造船の仕事に来たんだという御説明をしたということなんですが、それは具体的にどういう意味なんですか。
- というのは、我々が船に乗せられてから、おまえたちは苦力（くーりー）だと、造船に行くんだというふうに言われてたからです。
- 136 ちょっと話は変わりますが、日本に来る前の話をちょっと伺いたいんですが、小学校を卒業したというのは正確な言い方ではないと、農村の私塾に通ったが行ったり行かなかったりで、2年通ってお金が続かないので辞めたということですね。
- そうです。

137 お金が続かないということは、農村の塾というのは高い授業料を取っていたんですか。

高かったです。

138 そのほかに、生活が苦しかったとか、そういうことではないんですか。

そうです、生活が苦しかったからです。

139 あなたのふるさとは農村という御紹介だったんですが、作物がよく取れなかったりとか、そういう状況で生活が苦しかったということもあるんですか。

そうです。

140 それから、本件訴訟提起に至るまでのことを伺います。1999年8月に長崎真相調査団が中国に行った際、あなたはその調査団に会いましたね。

そうです。

(以上 丸田 留美子)

丸田

141 その調査団からはどのような話を聞きましたか。

そのときは無理やり連行したのは政府と三菱だということは聞いたように思います。

142 そのほかにどんなことを聞いたか覚えていますか。

いや、ほかは覚えてません。

143 2003年10月に今回の代理人の先生に訴訟のための代理人になることを委任していますね。

そうです。

144 その際、先生方から事実関係と法律的問題の説明を受けたということだと思うんですが、どんな説明だったか覚えていますか。

ちょっと、はっきり覚えてません。

145 今回日本を訪問されてますが、訴えを提起した際に日本に来ていましたか。

来ました。

146 いらっしやった。

はい、来ました。

147 それは裁判所に訴状を届けるとか、そういう役割で来たんですか。

そうです。

原告ら代理人（浅井）

148 ちょっと立ってみてください。

（証言席の前に立ち上がった）

149 右肩が下がってますよね、左と比べて。

違います。左が高い、右は低いです。

150 どうしてですか。

恐らく刀で切られたときに神経か筋が切られて、右肩が下へ落ちてしまいました。ですから、今も首を曲げるときに曲げにくいです。

151 右腕が使いにくいということもありますか。



そうです，ちょっと使いにくいです。

152 力が入りにくいということがありますか。

上へ上げようと思うと1ペんで上げれないで，途中でゆっくりとしながらでないとなげれないです。


153 それも刀で切られたためだと思うということですか。

そうです。

(以上 森 令子)

長崎地方裁判所民事部

裁判所速記官 森 令子 

裁判所速記官 丸 田 留美子 

[→HOME](#)